公表

事業所における自己評価結果

事業所名	和こう		公表日 令和 7 年 2 月 14 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	85%	15%		限られた空間の中で、子ども達が快適に過ごすことができるような空間・環境づくりを、職員間で意見を出し合いながら検討していきたい
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	69%	31%		今後も継続して部署間の連携をしっかりと図り、職員応援の体制を整えていく。また、職員間で、どの時間帯に職員が少ないと感じるか、共通認識の機会を設け改善に繋げていく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	85%	15%		こどもが過ごす空間は、写真や絵・文字を用いて構造化されている環境作りを心がけている。また、職員間で更によりよい環境作りのために何ができるのか検討し、実践していきたい
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	85%	15%	倉庫・棚の整理は必要である。片付ける物の場所をしっかりと決めておくとうまいと思う。古い玩具や教材の取捨選択・見直しを行う必要がある	生活空間を改めて見直す機会を設け、整理整頓を行う。清掃・消毒は継続して行い、心地よく過ごせる環境作りを継続する
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	85%	15%	その日に登園したこどもの状況に応じて、臨機応変に各保育室などを使用することができるよう対応を行っている	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	69%	31%		PDCAサイクルにより多くの職員が参画することができるように、PDCAサイクルを2回に分けて行うなど、検討し実践していきたい
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	92%	8%		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	職員間で意見を発信しやすい雰囲気作りを日頃から心がけて行っている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	77%	23%		第三者による外部評価を現在行っていないため、どのようなことを指すのか、改めて職員間で情報共有・周知を行ってきたい
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	92%	8%		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	児童発達支援計画作成の際は、職員間の共通理解の下、参加する多くの職員が意見を出し合い、検討を行っている	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	92%	8%	担当クラス以外のことで、情報共有されていないことがある	児童発達支援計画は必ず全職員で共有し、一人ひとりが支援のねらい・目的を認識しながらこどもの支援を行えるよう意識していく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	92%	8%		現在使用しているアセスメントツール見直しを行いながら、更新していく。また、どのようなアセスメントツールを使用しているか、職員間での周知も再度行う
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%		

援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	85%	15%		活動プログラムのチームに入る職員が日によって交代することもあるため、立案・実施の際は共通理解を徹底して行う機会を設けていく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	85%	15%	活動内容が制作になると、固定化していると感じる時がある	活動内容が固定化してしまわないように、複数の職員からの意見交換の機会を設けていく
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	92%	8%		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	小集団活動に参加する職員が毎回固定化されておらず、連携が難しい場面がある	他部署からの応援職員が活動に参加する時もあるため、必ず活動開始前の情報共有申し送りは特に心がけて行っている
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	92%	8%	支援終了後や終礼ミーティング時には、振り返り・気づいた点などを共有する打ち合わせを行う体制を整えている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	92%	8%	支援の検証・改善につなげられるよう、日々のこどもの姿や課題・支援に関することは記録を行っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	92%	8%	必要に応じて、個別支援計画の見直しを検討して行っている	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	保育所や認定こども園、幼稚園などの併用利用先施設職員と、電話連絡や訪問見学などの支援内容の情報共有や相互理解の経験を設けられるようにしている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	就学の際には、各関係機関との情報共有・相互理解の機会を設けている	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	92%	8%		地域の障害児通所支援事業所などの情報共有を行う機会は設けている。今後は、地域全体の質の向上のために、どのような取り組みが具体的に挙げられるか検討し、実施に繋がられるよう連携を図っていきたい
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	92%	8%		外部研修への参加の機会を更に増やし、また職員間の伝達講習などの機会を設けることで、職員の更なる資質の向上に繋がってきたい
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	85%	15%		まずは職員間で部会や地域の会議などの詳細をどの程度把握しているか確認する機会を設け、積極的な参加に繋がられるような体制作りをしていく
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	31%	69%	専用利用児は、地域のこどもと関わる機会は設けられていない	感染症拡大予防のため、交流の機会が設けられていなかったが、今後は年に1回の交流を検討していきたい
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	連絡帳面や電話連絡を通じて、日頃のこどもの情報共有・共通理解を行っている	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	77%	23%		家族に対する家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングなど)について、職員間で改めて共通認識の機会を設け、研修への参加の機会を増やしていく	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	92%	8%			

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	児童発達支援計画を作成する際は、アセスメントを充分に行い、こども・ご家族の意向を確認する機会を設けている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、必要に応じて訂正を行いながら、保護者からの同意を得ている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	日々の情報交換で使用している連絡帳面や、個別支援計画書の説明の面談を通じて、保護者からの相談事があれば、助言や支援などの対応している。また、必要に応じて面談の機会を設けている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	92%	8%		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	46%	54%		今後は、地域に開かれた事業運営を図っていくことができるような、行事・活動内容を実施していくことができるよう検討したい
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	92%	8%	様々な事故予測をして、それに対応していくことができるように、マニュアルを見直し作成している	職員一人ひとりの事故に対する意識の変化や保護者の方への周知が課題であると考えている
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	こどもの健康状態を、利用開始前に確認し、職員間で周知している。また、体調不良で欠席する児がいれば、利用再開前に体調の経過確認も併せて行っている	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	和こう利用開始前に、アレルギーの有無の確認は必ず行い、医師の指示書に基づく対応を行っている。また、給食・間食は複数名の職員で確認してから提供するようにしている	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	92%	8%		こどもの安全確保に関しての家族への周知は不十分であり、今後は家族との円滑な連携を図るため、周知を徹底して行っていく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止のため、日頃から職員間の認識について話し合いをする機会を設けており、適切な対応を心がけている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	送迎バス乗車時など、やむを得ず身体拘束を行う際は、事前に保護者に対しての説明を行い、了承を得て実施している	